指導案④

**地震防災　学習指導案**

年　月　日（　）第　校時

小学校中学年

児童数　　　名

場所　　　教室

指導者

**１　題材名**　「地震に備えて家具を固定しよう」

**２　題材について**

（１）児童の実態

（小学校の立地、児童の人数、特徴などを書く。）

　（２）題材設定の理由

　　　地震防災の学習は以下の内容を基本とする。

* ハザードの理解（なぜ地震が発生するのか）
* 地震への備え（ハードとソフト）
* 地震発生時の対応（直後の身を守る方法から避難、救出・救助、支援、避難所生活など）

地震の犠牲者の多くは建物の倒壊や家具の下敷きによる圧死である。建物の耐震化は費用、工期などの関係で、こどもたちが今すぐ取り組める課題ではない。長期的な視野が必要である。一方、建物が耐震化されていても家具の下敷きで命を落とす場合もある。まず、家具の固定を進め、「耐震」への意識を高めたい。

**３　評価規準**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 集団活動や生活への  関心・意欲・態度 | 集団の一員としての  思考・判断・実践 | 集団活動や生活についての  知識・理解 |
| 評価規準 | 自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。 | 小学校での生活を楽しくするために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。 | 小学校での生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。 |

**４　事前の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
|  |  |  |

**５　本時のねらい**

地震による死者の多くが倒壊した建物や転倒した家具の下敷きによる圧死であることを理解させる。

圧死を避ける方法として建物の耐震化と家具の固定が大切であることを理解させる。

家具の固定の方法を理解させる。

**６　本時の展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指すこどもの姿と評価方法 |
| 導入 | 地震発生時の室内の写真を見て、どんなことが起こっているかを考える。 | 地震発生時の室内の写真を使って、室内のものが凶器になっていることを理解させる。  　怖がらせるのではなく、そのような事態を避ける方法があることを教え、安心感を持って考えられるように配慮する。 | 写真を見て、何が原因でそのような事態になるかを理解できているか。 |
| 展開 | グループに分かれて、　箱を揺らして家具の転倒を観察する。  棒、箱、セロテープ、ノリなどを使って倒れないように工夫をする。 | 家具が倒れないようにするにはどうしたらいいかを考えさせる。  大きな箱（部屋）の中に小さな箱（家具）を入れ、それを揺らして家具が倒れる様子を観察させ、倒れなくする方法を考えさせる。  棒、箱、セロテープ、ノリなどを準備しておく。 | 自分の意見を主張し、他者の意見を尊重しながら話し合えているか。 |
| グループで考えた転倒防止策を発表する。 | 各グループに転倒防止策を発表させ、肯定的に評価していく。 | グループで役割分担をしながらわかりやすく発表で来ているか。 |
| 自分たちの発想と実際の家具の転倒防止策の類似点に気づく。 | 実際の転倒防止策を写真で見せ、説明する。  　こどもたちの発想と実際の転倒防止策が似ていることを告げ、「自己肯定感」を得られるようにする。 |  |
| まとめ | 正しい家具の固定法を学ぶ。 | プリントを使って実際の家具の固定方法をいくつか説明する（金具、突っ張り棒、滑り止めシートなど）。 | 正しい家具の固定方法を理解しているか。 |
| 家に帰って家族と家具の固定について話し合う。 | 家に帰って家族と家具の固定について話し合うという宿題を出す。 | 次回の授業の冒頭で話し合った内容を発表させ、チェックする。 |

**７　事後の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
| 家具の固定方法について家族と話し合う。 | 家族が理解しやすいように、家具の固定方法を図で説明したプリントを準備する。  あわせて、実際に固定したかどうかをアンケート形式で回答してもらう。 | 家族と話し合いをしたか。  実際に家具の固定を行ったか。 |

以上